

強度行動障害の理解

- ・ 障 害 特 性 の 理 解

この時間で学ぶこと

- 関わる側の特性理解の不足による「環境面が整っていない状況」が、強度行動障害のリスクを高める要因となることがあります。
- 知的障害の程度が中度～最重度であり、自閉スペクトラム症/自閉症スペクトラム障害（以下、自閉症と記す）の特性が強い人たちが、強度行動障害の状態になりやすいという現状があります。したがって、自閉症の方々の特性を理解しておくことが重要です。

この時間の流れ

講義

 動画視聴

なぜ自閉症の特性を学ぶのか

自閉症について

自閉症の特性を整理する

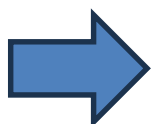
学びと肯定的理解の重要性

知的障害および精神障害について

なぜ自閉症の特性を学ぶのか

「強度行動障害」とは？

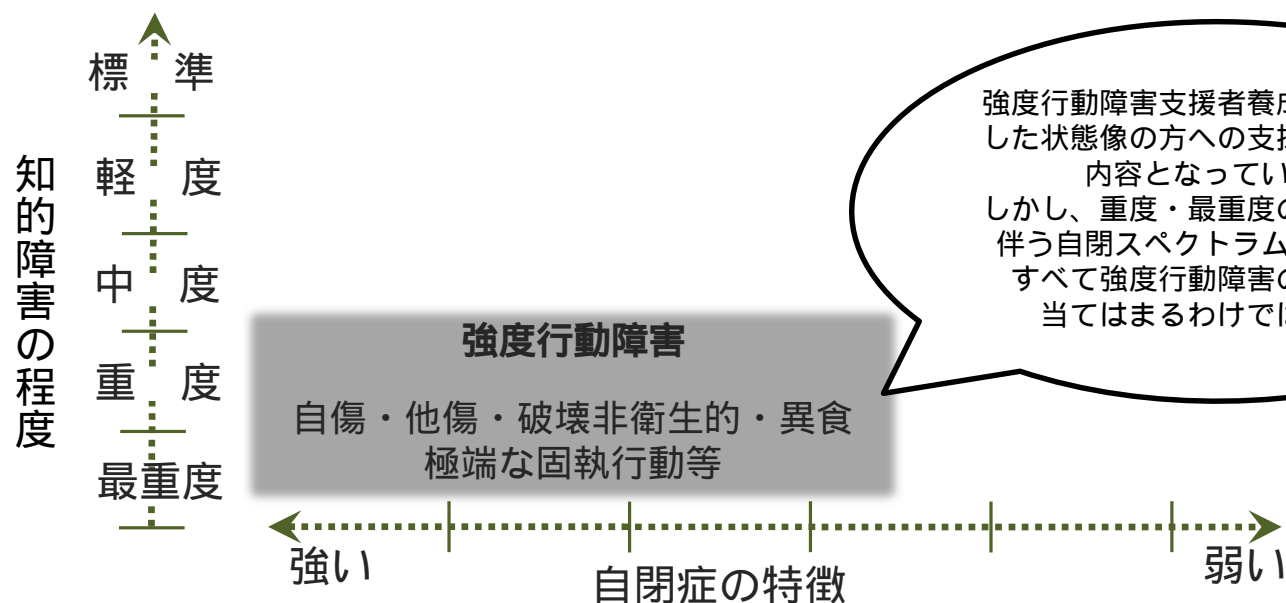
強度行動障害とは、自傷、他害、こだわり、もの壊し、睡眠の乱れ、異食、多動など本人や周囲の人の暮らしに影響を及ぼす行動が、著しく高い頻度で起こるため、特別に配慮された支援が必要になっている「状態」である。



× 生まれつきの障害

○ その人の現在の状態

○強度行動障害にはさまざまな状態像が含まれているが、強い自傷や他害、破壊などの激しい行動を示すのは重度・最重度の知的障害を伴う自閉スペクトラム症の方が多く、自閉スペクトラム症と強度行動障害は関連性が高いと言われている。



強度行動障害と自閉症の関連性が高い
とされています。

したがって、
強度行動障害への支援を学ぶためには、
まず自閉症のことを知ることが大切です。

強度行動障害に関する調査結果

岡山県が実施した2019 年度 強度行動障害に関する
実態調査報告書より

- 療育手帳所持者の 2 % が強度行動障害

ちなみに、強度行動障害リーフレット
(平成25 年度厚生労働省)によれば、推計値
として、強度行動障害得点10点以上の人が療育
手帳所持者の概ね 1 % 程度 (全国で約8000人)
あるとしている。

強度行動障害に関する調査結果

岡山県が実施した2019 年度 強度行動障害に関する
実態調査報告書より

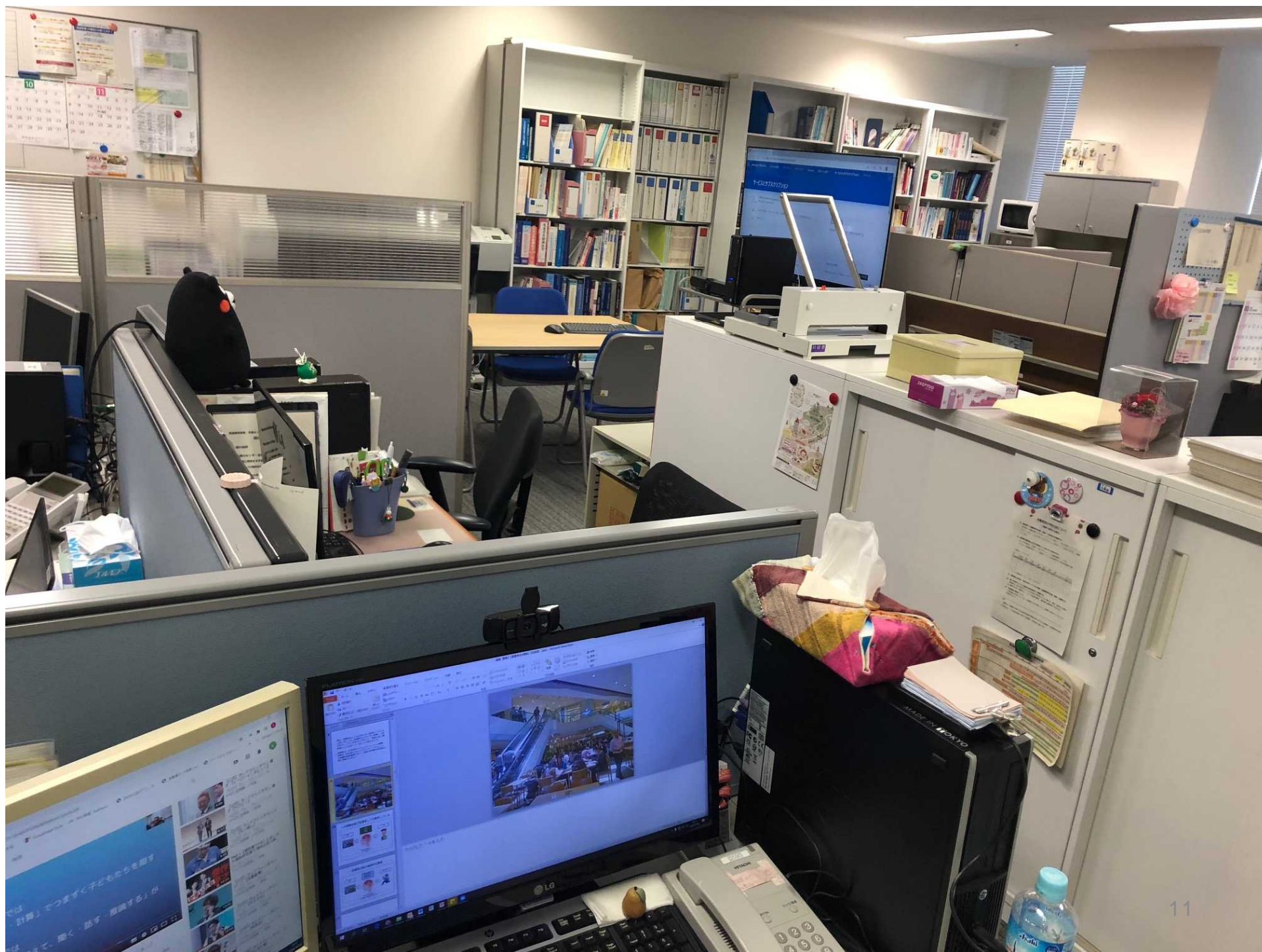
- 知的障害あり（96.6％）、自閉症あり（52.6％）
- 知的障害と自閉症を併せ持つ人は50.8％

強度行動障害リーフレット（平成25年度厚生労働省）には「強度行動障害になりやすいのは、重度・最重度の知的障害があったり、自閉症の特徴が強い『コミュニケーションが苦手な人』です」という記載がある。

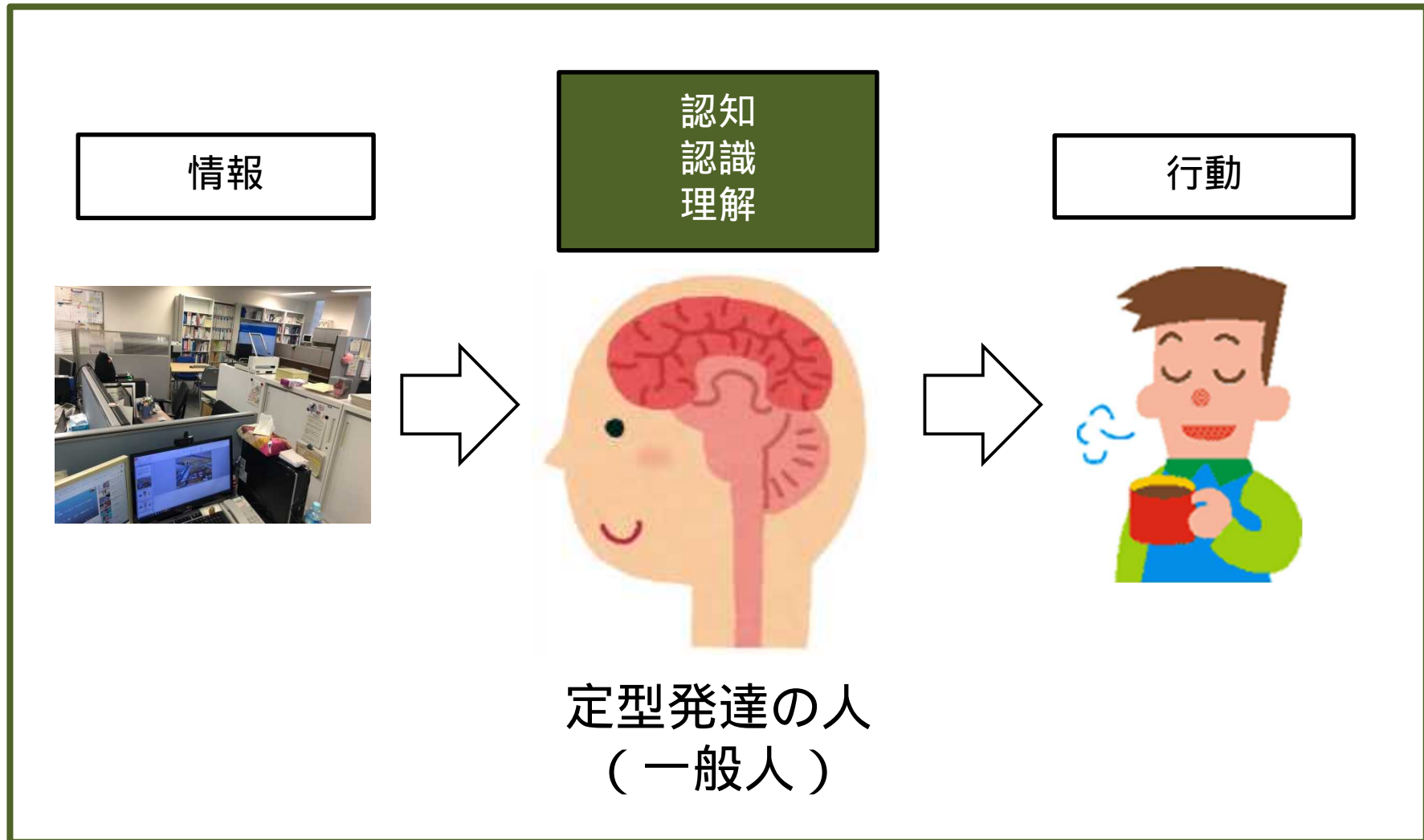
- 強度行動障害がある人を支援している機関は、
障害者支援施設：77.1％、生活介護事業所：50.0％
就労継続支援 B 型事業所：4.2％、
支援学校：33.3％、精神科医療機関：44.4％

自閉症について

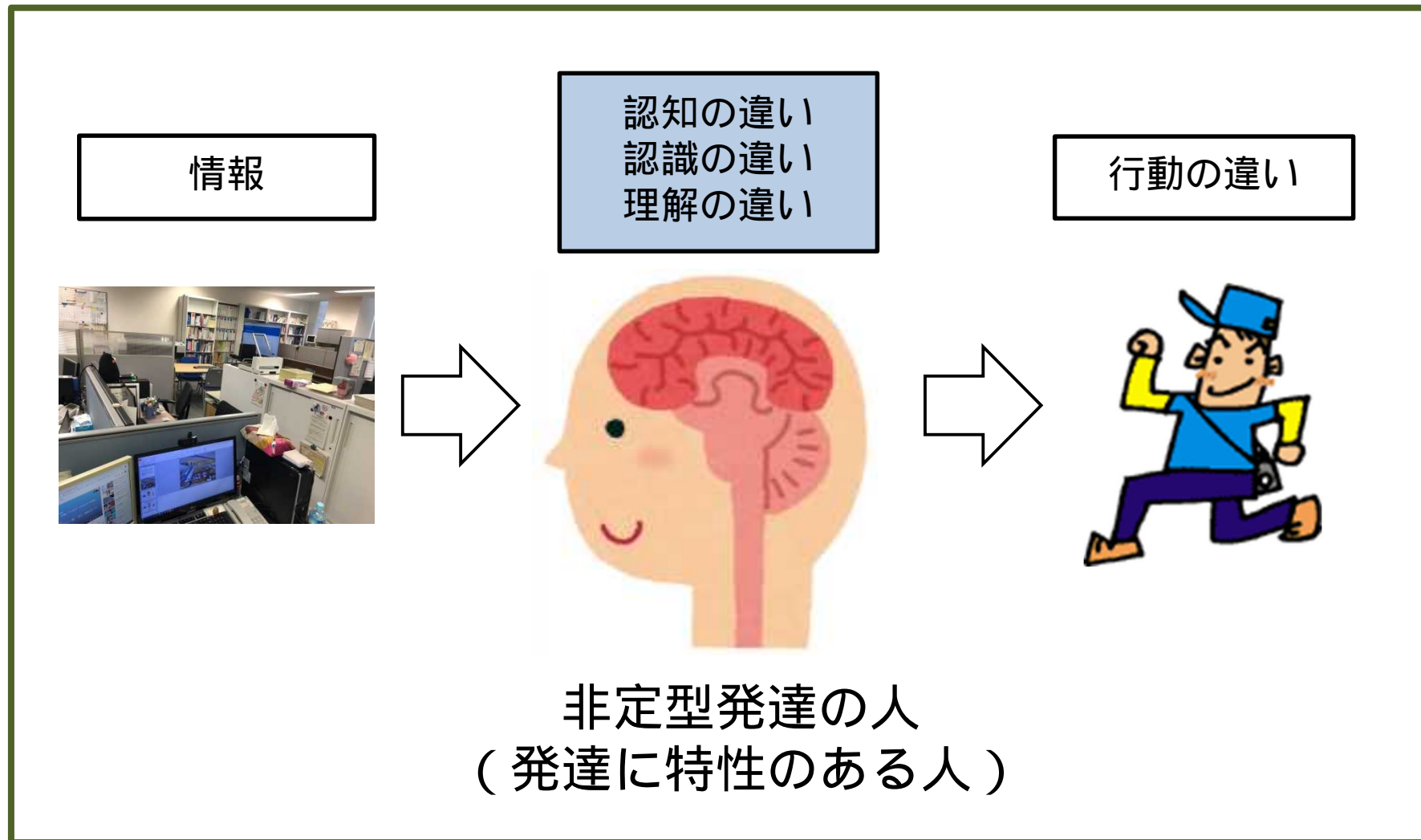
- 現在、自閉症のことを正式には「自閉スペクトラム症」もしくは「自閉症スペクトラム障害」と呼びます。いろいろなタイプがいて、境目のない連続体として広がっているという考え方です。
- 自閉症は、社会性やコミュニケーションの困難、想像力（目の前にないことをイメージすること）の困難が診断基準となり、感覚の特異性も診断の際に考慮されます。



人は情報を脳で処理をして行動をしている



自閉症は脳の機能的な障害



自閉症の特性を整理する

なぜ、自閉症の特性を整理するのか

自閉症の人たちは社会では少数派です。

その物事のとらえ方は、多くの人たちとは異なります。

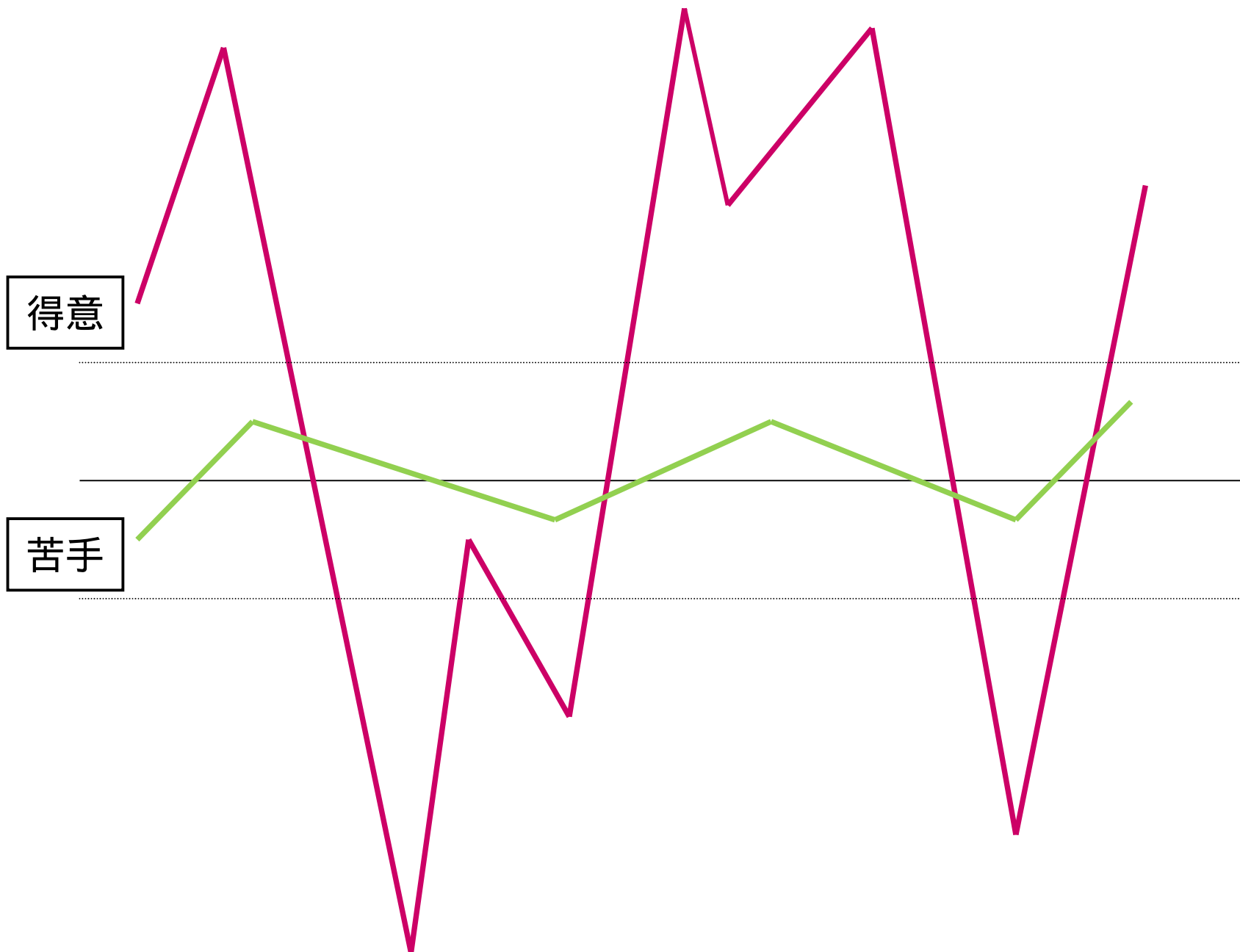
自閉症の人たちがどのような物事のとらえ方をしているのかは、特性を把握し整理することで見えてきます。

特性とは

「強み」と「弱み」と言い換えることもできます。

「強み」は支援に生かすもので、
「弱み」は支援者が配慮するところ と言えます。

それゆえ、特性の把握においては、
「強み」と「弱み」の両面を整理しておくことが重要
です。



- 自閉症の人たちの
物事のとらえ方に合わせた支援をすることで、
自閉症の人たちは適切に学ぶことができ、
強度行動障害という状況に陥ることなく、
よりよい生活を送ることができます。
- 私たちは、自閉症の人たちの特性を常に学び、
支援の基盤に置く必要があります。

ここでは、自閉症の特性を次のように整理しています。

社会性の特性

コミュニケーションの特性

想像力の特性

感覚の特性

視点 社会性の特性

【人や集団との関わりに難しさがある】

- ・ 相手への関心が薄い
- ・ 相手から期待されていることを理解することが難しい
- ・ 相手が見ているものを見て、相手の考えを察することが難しい

【状況の理解が難しい】

- ・ 周囲で起こっていることへの関心が薄い
- ・ 周囲の様子から期待されていることを理解することが難しい
- ・ 見えないものの理解が難しい

自分がすべきことが明確であれば、集団への適応が増す。

視点 コミュニケーションの特性

【理解が難しい】

- ・話し言葉の理解が難しい
- ・一度にたくさんのことを理解するのが難しい
- ・抽象的であいまいな表現の理解が難しい

【発信が難しい】

- ・話し言葉で伝えることが難しい
- ・どのようにして伝えたらいいか分からない
- ・誰に伝えていいか分からない

視点 コミュニケーションの特性

【やりとりが難しい】

- ・ 場面や状況に合わせたコミュニケーションが難しい
- ・ 表情や視線などの非言語コミュニケーションが難しい
- ・ やりとりの量が多いと処理が難しい

話し言葉だけではない、たとえば目に見えるツールを活用することで、伝達度が増す。

視点

想像力の特徴

想像力：目の前にないことをイメージする力

【自分で予定を立てることが難しい】

- ・ 段取りを適切に組むことが難しい
- ・ なんとなく、だいたいなどのイメージを持ちにくい
- ・ 今やることを自分で判断することが難しい

【変化への対応が難しい】

- ・ 先の予測をすることが難しい
- ・ 臨機応変に判断することが難しい
- ・ 自分のやり方から抜け出すことが難しい

視点 想像力の特徴

【物の一部に対する強い興味】

- ・ 興味・関心が狭くて強い
- ・ 細部が気になり違いに敏感
- ・ 少しの違いで大きな不安を感じる

目の前に存在する視覚情報があるとわかりやすさが増す。

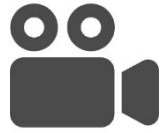
自分が興味・関心のある対象への思いが強みになることも多い。

視点 感覚の特性

【感覚が過敏または鈍感】

- ・聴覚の過敏や鈍麻がある
- ・視覚の過敏や鈍麻がある
- ・触覚の過敏や鈍麻がある
- ・嗅覚の過敏や鈍麻がある
- ・味覚の過敏や鈍麻がある
- ・前庭覚の特有の感覚がある

感覚に関する反応が、心身の状況や調子のバロメーター
となることも多い。



ここで動画を見ます

学びと肯定的理解の重要性

- 「理解に始まって理解に終わる」のが支援なので、わかったつもりにならないことが大切です。
- 基礎基本の学びをおろそかにせず、基礎基本にいつも立ち返ることはとても重要です。

苦手なことには配慮し、得意なことは活かす
のが支援の基本です。

繰り返しになりますが、
得意なことを把握することはとても大切です
（苦手とされていることも「ここまではで
きる」という見方もできるし、視点を変えれ
ば「強み」になることもあるはずです）。

知的障害および精神障害について

自閉症以外に、
強度行動障害に関連する障害として、
知的障害および精神障害があります。

知的障害の診断基準

(DSM-5では、知的能力障害もしくは知的発達症と表記される)

- 知的機能に制約があること

IQ70未満が知的障害の目安

知的機能 = 言語理解力・論理的思考力・抽象的思考力推理力・記憶力・
経験から学習する能力・概念形成能力・知的推理力等

- 適応機能に制約があること

日常の社会生活を営む上で必要とされる能力や行動に制約がある

- 発達期に生じたものであること

概ね18歳以前に知的機能の制約と適応機能の制約が始まる

参考 DSM-5 (精神疾患の分類と診断の手引き²²)

軽 度	IQ 50-69
成人期においてその精神年齢は概ね9歳から12歳相当	
中 度	IQ35-49
成人期においてその精神年齢は概ね6歳から9歳相当	
重 度	IQ20-34
成人期においてその精神年齢は概ね3歳から6歳相当	
最重度	IQ 20未満
成人期においてその精神年齢は概ね3歳未満	

軽度、中度、重度、最重度の区分はICD-10（国際疾病分類）による。

精神障害について

- 統合失調症、精神作用物質による急性中毒又はその依存症、知的障害、精神病質その他の精神疾患を有する者（精神保健及び精神障害者福祉に関する法律第五条）
- 精神障害があるため、継続的に日常生活又は社会生活に相当な制限を受ける者（障害者基本法第二条）
- 幻聴、妄想、体感幻覚、感情の平板化、意欲低下、ひきこもりなどの具体症状が現れる。